

(日進市)

市町村の 基本情報	学校数	小学校 10 校、中学校 5 校		
	地域学校協働活動推進員等の配置状況	統括的な地域学校協働活動推進員		0 人
		地域学校協働活動推進員		4 人
		統括コーディネーター		0 人
		地域コーディネーター		9 人
	CS 及び地域学校協働本部設置状況	CS を導入している学校数	小 0 校	中 0 校
地域学校協働本部がカバーしている学校数		小 10 校	中 5 校	



(活動の実際)

《活動の概要》

市内にある 4 中学校区（分校除く）ごとに地域学校協働本部を設置し、それぞれに地域学校協働活動推進員 1 名を配置して活動を推進している。中学校区単位で本部を組織することで、各校単体の活動だけでなく、より地域を広く捉えて、広域的に緩やかなネットワークを形成することを目指している。

現在は、学校支援ボランティア活動を中心に、支援の輪を広げること意識しながら地域学校協働活動を推進している。

《意識や工夫》

活動を周知し、より多くの地域住民に継続して関わっていただくため、市内の関係各機関（ボランティアセンター、商工会、市民団体、大学、行政、公共施設など）との協力体制整備を進めている。

具体的な協力例：情報の提供・共有・発信、人材の紹介、各種集会での説明機会の創出など

《活動事例》

- ・ 校内環境整備（草刈り、花壇の整備、消毒、ベルマーク回収など）
- ・ 図書館活動支援（蔵書点検、書架整理、消毒など）
- ・ キャリア教育支援（職業人の話を聞く会にて講話など）
- ・ 部活動指導補助
- ・ 登下校の交通安全指導
- ・ 学校行事への協力

(コロナ禍での苦労・工夫)

新型コロナウイルスの影響により活動を縮小せざるを得ない状況であり、加えて、接触を避けてボランティアが単独で活動する場面も多く、子どもたちとのつながりを感じにくい部分があった。

本来であれば、地域の方々と子どもたちとの交流機会の創出につながることも活動の醍醐味であるので、状況が改善された際には、お互いの交流を図れる活動を取り入れたい。

現在は各校の実情に合わせて、コロナ禍であっても取り組める活動を検討し、感染対策を十分に行ったうえで慎重に活動を推進している。

(◎成果 ●課題)

- ◎ 学校と地域住民、市内関係各所との連携が生まれ、地域全体で子どもたちの学びや成長を支えようとする意識を高めるきっかけとなっている。
- ◎ 地域の中で「ボランティア」に興味を持つ人、参加する人が増え、ボランティア活動に関する認知度向上のきっかけになっており、新たなつながりが生まれている。
- 地域学校協働活動への理解がまだ地域に浸透していないので、理解・共感を得られるよう、周知を進める必要がある。
- 効率よく活動を展開するためには、各本部、学校間における日常的な情報共有の仕組みを構築する必要があると考える。

(関係者の声)

- ・ 母校で部活動の指導をすることができ、子どもたちに元気をもらいながら、とても楽しく活動できている。(大学生)
- ・ 顔見知りの人が増えるのは、学校行事の際などに心強い。(保護者)
- ・ ベルマーク回収活動のボランティアをやっているが、子どもたちの学校生活の役に立つ備品に交換できるのがとても楽しみ。(地域)
- ・ 地域の区長が学校活動に親身になって対応してくれた。心強い存在がいることを知れた。(教員)
- ・ コロナ禍で活動は縮小傾向だが、今後もっと学校と地域がお互いに壁を作らず、気軽に協力し合える関係性になっていけたら良いと期待している。(教員)